

人だけではありませんでした。

近年、英国には多くのマラウイ人看護婦がいます。このことには、英国の看護サービスの需要が人材を必要としていることが背景にあります。マラウイ政府は彼らが帰国するよう努力しており、そのためのプログラムを進めています。国外にいるマラウイ人の帰国奨励策によって彼らをマラウイに受け入れることを目指しています。また国外にいるマラウイ人がマラウイに投資や送金をすることも目指しています。たとえばマラウイ人の医師がマラウイでより多くの仕事ができるようにすることも含まれます。このようにマラウイ政府はこの課題に取り組んでいます。

以上

投稿 シマを食べる会に参加して

平成24年度3次隊
プログラムオフィサー 田中 晴子

今回初めてシマを食べる会に参加しました。今年の1月に帰国後、久しぶりにシマを食べ、チェウ語を話し、一気にマラウイ気分になりました。大使館の方々、隊員OB・OGはもとより、日本在住のマラウイの方々や、マラウイに興味のある方々も参加されており、日本とマラウイの交流の深さを感じました。マラウイファンが一人でも多く増えてくれたらいいなと願うばかりです。また、マラウイ関係者がこのように一同に集う機会があることは有難いことです。

このような素敵な会をご企画頂きました日本マラウイ協会の皆様に感謝申し上げます。

レポート 協力隊まつり2015に出展

4月11と12日、JICA地球ひろばにて「協力隊まつり2015」が開催されました。

当会もブースを設け、マラウイ母の会と共同で民芸品、チテンジ製品の販売、そして来場者からのマラウイに関する質問にお答えしました。天候に恵まれず、一般者への告知も十分でなかったせいか、来場者が少ないのが少し残念でしたが、その分、他団体の活動内容に触れることが出来て楽しかったです。

(編集部 S.N)



▲ 当会テント前で記念撮影

レポート 第8回マラウイウォームハートプロジェクト 「ントンドプライマリースクール 災害復興プロジェクト」

平成26年度2次隊
青少年活動 濱田 綾

私は現在マラウイ共和国ゾンバ県ソンガニ地区で、Expressive Artsという表現芸術科目(音楽、体育、図工、家庭などの総合科目)のティーチング

アドバイザーとして、地区の小学校を巡回しています。マラウイの小学校では1クラス100人を超える場合もあり、教材も乏しく、教科書も教科によっては1クラス2冊の場合さえあります。また、実習する内容の分野も説明のみで終わっている状況です。そこで、私は現地の先生方と一緒に実習の準備から実演まで補助にあたり、児童が体験することの大切さを魅力ある授業作りの一つとして提案しています。また、配属先では授業のアイデアを共有できるよう教員を対象としたワークショップも開催しています。

マラウイの生活文化に順応してきた今年2月、マラウイ南部を襲った豪雨と突風はまるで突然強い台風が襲来したような印象でした。ントンドプライマリースクールは、全校児童786人が在籍していますが、教室はトタン屋根の四教室のみで、グラスフェンス(葎のような植物をひもでつなげて作られたもの)の簡易教室が二部屋でした。グラスフェンスの教室は豪雨により全壊し、突風によりトタン屋根は吹き飛ばされました。簡易教室は地域の協力により修復されましたが、マラウイではトタン屋根は高額で復旧の見込みは立たず、雨が降るたび1年生と2年生は休校となり、晴れの日も木の下で青空教室でした。アフリカの強い日差しと暑さの中、学習はもちろん児童の健康も憂慮されていました。



▲ 吹き飛ばされた屋根

そのような時マラウイウォームハートプロジェクト募集の情報を知り、配属先に相談の上申請しました。この申請に対して日本マラウイ協会の皆さんが迅速に協議対応してくださり、3月には送金していただいた資金とDEM(ゾンバ県教育委員会)の援助



▲ 完成した屋根

により改修工事を始めることができました。工事に当たっては地域住民の協力もあり、4月の新学期には児童が教室で授業を受けられる態勢が整いました。雨が降っても児童が安全かつ安心して授業をうけることができ、教員も天候に左右されず集中して授業に取り組むことができました

最後に、資金を集めて下さった日本マラウイ協会と栃木県立茂木高等学校の皆さん、本当にありがとうございました。申請から送金、工事開始が迅速に

進み新学期までに全てが完了したのは協力してくださった皆さんのマラウイに対する熱い思いのおかげです。配属先や教員児童だけでなく、地域の方からもお礼をたくさんいただきました。今後は教室の維持管理はもちろんのこと、児童が率先して教室整備に努め集中して学習できるよう現地教員とともに協力していきます。



▲ 授業風景

第9回マラウイウォームハートプロジェクト レポート 「大雨で被害を受けたナーサリー スクールの修復支援」

平成25年度2次隊 コミュニティ開発 橋本裕保
平成25年度2次隊 コミュニティ開発 香島絵里奈

2015年1月にマラウイ南部で数日間大雨が降り続き、洪水被害が発生しました。私たちが活動をしているプランタイヤ県の農村地域においては、洪水被害は発生しなかったものの、多数の家が崩壊する被害を受けました。今回の被害には他国の援助が入りましたが、支援の多くは被害のより深刻なNsanje、Chikwawaといった地域に優先され、プランタイヤ県の農村地域への対応は後回しになりました。そのため、私たちが活動する地域の村人の生活を支援するためにプロジェクトを計画しました。

当初は1~2村を選定し、被害にあった全ての個人家屋の修復を行う予定でした。しかし、個人への支援は妬みの原因になること、残りの任期、支援する規模や金額の大きさを考慮し、支援内容を公共施設の修復に決めました。その中でも私たちが活動で訪問している、Lunzu地区のMaleure村(橋本)、Chikuri地区のNjolomore村(香島)のナーサリースクール(就学前児童が通う学校、村のボランティアで運営)を対象としました。ナーサリースクールの修繕は地域住民を主体に実施され、当プロジェクトを通じて支援するのは、住民では経済的に調達できない資材の部分のみとしました。工事自体は地域住民が実施し、私たちはその進捗管理を行いました。

4月末に申請をしたところ、翌週に入金をいただいたため、迅速に作業に取り掛かることができました。作業を始めるにあたり、それぞれの村で意思統一のためのミーティングを行い、どちらの村も5月中には資材搬入を終え着手しました。6月にはほぼ全てのレンガを組み終え、7月には屋根の取り付けを終え、8月に無事完成しました。

○ Maleure村



▲ 屋根の取り付け作業(7月)

8月22日に完成しました。葬式や、彼らの作業に対するモチベーションの低下なども途中にはありましたが、「自分たちの学校だから自分たちで完成させる」という意識で村長が中心になって村人をまとめ、彼ら自身で主体的に建設作業を進めることができました。



▲完成したナーサリースクール(8月22日)

○Njolomore村



▲レンガ組み作業(6月)

8月22日に完成しました。砂やレンガ、水を運ぶ作業、グラウンド整備は村人総出で行いました。作業に来た人の名前を村長とプロジェクトのリーダーがノートに記録しました。また、一日中作業する人に対して、シマ粉を村人で募り、昼食を提供しました。これら村人の自主的な取り組みにより、無事完成に至りました。



▲完成した校舎と村人、生徒たち(8月22日)

投稿

E-Zikomo ~マラウイの歩き方~ ご紹介

平成26年度3次隊 理学療法士
矢倉 厚子



10年ほど前に始まり、先輩たちから代々受け継がれて来たマラウイ青年海外協力隊員の情報ノート「E-Zikomo (イージコモ)」。マラウイウォーカーや地元音楽の紹介、旅行記、など多種多様なマラウイの情報。こんな面白くて役立つ情報を協力隊員しか読めないのもったいない。地球の歩き方にも掲載されていないマラウイを、そして協力隊の活動を日本人にもっと知ってもらいたい。そんな思いからこの度「E-Zikomo ~マラウイの歩き方~」のホームページを作成しました。

マラウイの文化や観光情報を紹介する記事、隊員へのインタビュー、加えて旅行記や任地紹介を書いた隊員ブログなどを掲載し、Facebookページでも記事の紹介や写真の投稿などを行っております。まだまだひよっこのホームページですが、隊員の有志が協力して記事の執筆やホームページの運営を行っていますので、ぜひ見て頂けると嬉しいです。

そして「E-Zikomo ~マラウイの歩き方~」はマラウイに関わる全ての皆様からの寄稿記事も受け付けております。記事を書きたいという方がいらっしゃいましたら、ぜひメールやホームページを通してご連絡下さい。その他ご感想などもお待ちしております。

E-Zikomo ~マラウイの歩き方ホームページ:
<http://malawizikomo.wix.com/malawi-e-zikomo>
E-Zikomo ~マラウイの歩き方Facebookページ:
<https://facebook.com/ezikomomalawi>
メールアドレス: malawizikomo@gmail.com

日本マラウイ協会

2015年3月~2015年8月 主な活動内容

- (1) 2015.3.25 3月定例会、機関紙KWACHA第53号発行
- (2) 2015.4.11~12 協力隊まつり出展
- (3) 2015.4.26 4月定例会
- (4) 2015.5.23 第32回通常総会
- (5) 2015.5.28 5月定例会
- (6) 2015.6.25 6月定例会
- (7) 2015.7.25 独立51周年記念祝賀行事(帰国隊員報告会、国情セミナー、シマを食べる会)
- (8) 2015.7.30 7月定例会
- (9) 2015.8.23 8月定例会



日本マラウイ協会情報



■ ご意見、ご質問をどうぞ

電子メールによる日本マラウイ協会からのお知らせを受け取りたい方、当会に対するご意見、ご要望、ご質問などありましたら、
E-mail: info@japan-malawi.org へご連絡ください。

■ グローバルフェスタJAPAN2015に出展します

10月3、4日、東京都お台場のセンタープラザにて上記イベントが開催され、今年も当会は参加出展致します。
ホームページアドレス <http://gfjapan2015.jp/>
お時間のある方はお越しください。

■ スマホでマラウイのラジオを聴く方法あります!

「Simple Radio」と「Tuneln Radio」という2つの無料アプリがありますが、中でも「Tuneln Radio」が画面の説明が日本語なので使いやすいです。「Tuneln Radio」を開いて、地域別→アフリカ→とタップするとアフリカの国名がずらりと出てくるので、マラウイを探してタップすると以下のラジオ局の局名が出てきます。全部で8局あります。

ラジオ局: Radio Maria (Malawi), Zodiak Radio
ボランティア(をタップすると下記が現れる):

Capatal FM Malawi, MBC Radio 1, MBC Radio 2,
Radio Islam (Malawi), Radio Maria (Malawi), YONECO FM

その中から聴きたい局をタップし、再度タップすると放送が聞こえてきます。Radio Maria (Malawi) ではよく、チェワ語で聴取者と会話している女性アナウンサーの音が聞こえます。先方のインターネット環境が一番安定しているのが、Radio Maria です。日本に居てマラウイの雰囲気十分楽しめます。まだの方は是非一度試してみてください。(情報提供H.U)

■ KWACHAバックナンバー閲覧出来ます

当会は2015年2月26日に設立32周年を迎えましたが、設立時の機関紙KWACHA第1号から第54号(今号)までの全バックナンバーをPDFファイル化し、当会ホームページに掲載しています。是非ご覧ください。

■ 日本マラウイ協作成「チェワ語辞典」「統計資料集」電子版ご紹介

今後、より多くの方々へのチェワ語の情報提供を考え、当会が作成したチェワ語辞典を電子化し、当会のホームページから自由に閲覧可能となりました。ご興味のある方はご覧ください。また、マラウイ独立50周年を記念し、当会統計班がマラウイ独立からの時系列の英文統計集を編集しました。多くのマラウイと日本の皆様にご利用くださることを望んでいます。

■ 日本マラウイ協会 月次定例会にお越しください

日本マラウイ協会では、原則毎月最終木曜日、19:00 ~、東京都内(原則: 新宿区市谷のJICA地球ひろばセミナールーム)で、月次定例会を開催し、マラウイ関連の支援活動についての討議や、マラウイ関係者間の情報交換などを行っています。参加は会員でなくても構いません。初めての方も大歓迎です。なお、開催日等は突然変更になる場合もありますので事前に当会までお問い合わせください。

■ 日本マラウイ協会 入会方法等

当会ホームページのトップページの「入会案内」のアイコンをクリックするとメールフォームが出てきますので、所要事項を入力して送信してください。また、入会金と年会費の合計(個人正会員の場合 1,000円 + 3,000円 = 4,000円)を下記のいずれかの銀行口座へお送りください。継続会員の方の年会費(個人正会員の場合 3,000円)は、E-mailでご連絡の上、お送りください。いずれもどちらの口座に送金するかE-mailでお知らせください。

- (1)三菱東京UFJ銀行 東恵比寿支店 普通口座255739
口座名義: 日本マラウイ協会事務局 貝塚光宗
- (2)ゆうちょ銀行 〇一丸店(ゼロイチキョウ店)
当座預金口座 0013125
口座名義: 日本マラウイ協会
(ゆうちょ銀行から送金する場合は、口座番号: 00190-7-13125)